

『福山大学経済学論集』
第44巻
(2020年3月) 抜刷

公立中学校による地域活性化の取り組みについて

小林 正和

公立中学校による地域活性化の取り組みについて

小林正和¹

要旨

広島県府中市立上下中学校の3年生が、毎年「総合的な学習の時間」の中で、府中市上下町の地域活性化の取り組みを行うことにしている。この取り組みは平成27年度から行っており、著者は毎回参加して指導・助言を行ってきた。その経緯と取り組み内容、課題等について述べてみたい。

今年度は3年生39人が4つのグループに分かれて取り組んでいるが、今後も上下中学校では、「総合的な学習の時間」での地域学習を続ける予定である。地域活性化の取り組みに関わることは、他の地域の活性化の取り組みに関心が向くのではないかと考える。

課題としては、まず平成27年当初には補助金があったが現在はなくなり、予算がない状態で取り組んでいることである。そのため地元の業者等の協力なしにはできないことになっており、将来も継続していくことが難しくなる恐れがある。今後は予算がない中で、いかに継続的に続けていくかを検討しなければならないと考える。次に教諭の業務の多忙があげられる。学校現場では様々な仕事があり、今回の取り組みを集中的にすることは難しく、他の業務との調整が必要である。さらに転勤等で主力の教諭がいなくなり、取り組みのノウハウが継承されないことが挙げられる。

このような課題があるが、今後の中学校等が地域活性化の取り組みを行うことに対して、参考になるのではないかと考える。

キーワード： 府中市立上下中学校 地域活性化 総合的な学習の時間

はじめに

広島県府中市立上下中学校（以下上下中学校と称する）の3年生が、毎年「総合的な学習の時間」の中で、府中市上下町の地域活性化の取り組みを行うことにしている。この取り組みは平成27年度から行っており、著者は毎回参加して指導・助言を行ってきた。今年度は3年生39人が4つのグループに分かれて取り組んでいるが、その経緯と取り組み内容、課題等について述べてみたい。

1. 広島県府中市立上下中学校について

広島県府中市上下町は、広島県東北山間部に位置し、三次市まで約30km、福山市まで約

¹ 所属：福山大学経済学部 連絡先：084-936-2111

50km、広島市まで約 100km の距離にある。道路も交通の要衝として比較的発達し、町の中心から J R 福塩線、国道 432 号線、県道吉舎・油木線、県道福山・上下線、県道三原・東城線がほぼ放射線状に伸びている。海拔約 460m に位置する高地で、山陰に注ぐ江の川水系の上下川と山陽に注ぐ芦田川水系の矢多田川の分水嶺の地でもある。²

そして、この府中市上下町の中心に、上下中学校は位置する。昭和 22 年 4 月 1 日に甲奴郡上下町立上下中学校と校名決定し、5 月に開校となった。その後、平成 16 年 4 月 1 日に府中市との合併に伴い、府中市立上下中学校と校名変更になっている。³

現在、上下中学校は、広島県「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校とコミュニティ・スクール指定校（平成 29 年）となっており、小学校併設型中学校として、府中市立上下北小学校、府中市立上下南小学校と「上下学園」を形成し、小中一貫教育に取り組んでいる。さらに広島県立上下高等学校、府中市立上下保育所とも連携し、保小中高一貫教育の創造に向け、取り組んでいる。⁴

生徒は、令和元年度は 1 年生 28 人、2 年生 38 人、3 年生 39 人と全員で 105 人となり、生徒数は減少傾向となっている。また卒業生の進路先として、地元の広島県立上下高等学校に毎年多くの生徒が進学しているが、近年は通学費用の一部負担があり、さらにクラブ数の多さなどから広島県立世羅高等学校に入学する生徒が多くなっているという。

図 1 府中市上下中学校地図



²小林正和（2006）「広島県府中市上下町における「まちづくり」事業の取り組み」、福山大学経済学論集 第 30 巻第 1・第 2 合併号

³ 府中市立上下中学校HP
www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/syoukai/syoukaimenu.htm

⁴ 府中市立上下中学校HP 校長あいさつ
<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/syoukai/H31-5-14aisatsu.pdf>

出典: 上下中学校地図 <https://www.navitime.co.jp/maps/poi?code=00004-34108800090> をもとに加筆

2. 広島県府中市立上下中学校の地域活性化の歴史

上下中学校では、平成 27 年度から「学園チャレンジプロジェクト」として、3 年生 39 人に「総合的な学習の時間」の中で、府中市上下町の地域学習を行うことにしている。そこで著者は、平成 27 年度から現在まで生徒への指導・助言を行っている。

令和元年度は、6 月 19 日（水）、7 月 10 日（水）、そして 12 月中に 1 回の各 2 時間ずつ、計 3 回実施するもので、最初の 2 回は取組内容への指導・助言を行い、最後の 12 月は結果を踏まえての総括となっている。今回はこの取り組みの概要を述べてみたいと考える。

3. 上下中学校の地域活性化の具体的な取り組み

「総合的な学習の時間」での地域学習の内容は、4 人から 10 人程度のグループを 4 つ作り、各グループで活性化の取り組みを行うものである。毎年、生徒に何を取り組むのかを聞いて取り組んでいるが、例年今回のように「開発グループ」、「広報グループ」、「英語ガイドグループ」、「おやきグループ」の 4 つのグループに分かれている。また開発と広報グループはさらに小グループに分かれている。そこで各グループから進捗状況や内容等を聞き、アドバイスを行った。

図 2 令和元年度（2019 年度）の「総合的な学習の時間」での指導風景



出典：府中市立上下中学校 学校長 石川敬石氏撮影

(1) 開発（商品開発、グッズ）グループ（計 10 人）

①「飲食」6人

<当初検討>：しょうがやハーブをメインとした飲食物を開発して、上下白壁祭り（10月20日開催）で販売するもので、サンドウィッチ、ジンジャータピオカミルクティを検討していた。地元上下町で近年開業した「ホームキッチン」に依頼する。

最終的に、タピオカミルクティとなり、値段は1杯400円で100個販売した。

<指導・助言>：全体で何個作るのか、当初時期が未定だったため聞いたところ、上下白壁祭りに実施予定であった。スケジュール管理をしっかりとすることが大切であり、収支報告書を作成して、協力してもらった業者の方へのお礼を検討することを助言した。

図3 令和元年度（2019年度）のタピオカミルクティの販売風景



出典：著者撮影

②「グッズ」4人

<当初検討>：手作りのキーホルダーを作成し、上下白壁祭りに無料で100個配布する予定である。このキーホルダーの材料にはUVレジンを使い、この中に古い着物の切れ端や花、葉などを入れて作成するものである。

最終的に、UVレジン手作り体験として、1個150円で20個を販売した。

<指導・助言>：キーホルダーの値段決め、数量、配布方法を再度検討することと、スケジュール管理をしっかりとすることが大切であると助言した。

図4 令和元年度（2019年度）のUVレジンキーホルダー手作り体験風景



出典：著者撮影

（2）広報グループ（計10人）

①「CM作成」6人

<当初検討>：メディアやネットを使って上下町のCMを作ってPRをするもので、1分のロングバージョンと30秒のショートバージョンの2つを作成するものである。TV番組やユーチューバーに依頼することも検討している。さらにポスターを作成し、JR上下駅やJR福山駅等に貼ってもらっている。

<指導・助言>：CM作成が全くできていないため、このままでは完成しない恐れがある。スケジュール管理をしっかりとして作成を行うことが大切であると助言した。

②「チラシ作成」2人

<当初検討>：8月ごろには完成し、地域の人や観光客に世羅の道の駅、JR府中駅、JR福山駅などで配布する計画で、実施した。

<指導・助言>：配布先の検討とスケジュール管理をしっかりとするのが大切である。また他グループでもポスター・チラシを配布することになっているため、協力して作成、配布をしてはどうかと助言した。

図5 平成30年度(2018年度)のチラシ



出典：上下中学校HP

<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/sougou/SHIRAKABEFESTIVAL.pdf>

③「広報提言」2人

<当初検討>：上下商店街のはずれにある元芝居小屋の翁座の活用を提言することである。具体的には、今までは建物の見学だけであったが、香川県琴平町にある旧金毘羅大芝居（金丸座）のように歌舞伎や落語の上演ができるように府中市へ働きかけることである。

令和元年10月23日には上下中学校の生徒達が府中市長と面談をしている。

<指導・助言>：具体的な内容の検討・決定とスケジュール管理をしっかりとすることが大切であると助言した。

(3) 英語ガイドグループ (計9人)

「英語ガイド」9人

<当初検討>：例年のように上下町を訪れる外国からの観光客に上下町の人々との触れ合いを楽しんでもらい、SNS等で上下町のアピール、宣伝をしていきたいというものである。具体的な内容は、外国からの観光客に英語でガイドを行うことや英語でパンフレットを作成し、配布するものである。

最終的に、上下白壁祭りでチラシ、ティッシュ、英会話集等を配布している。

図6 上下白壁祭りでチラシ等の配布風景



出典：著者撮影

<指導・助言>：ガイドツアーの立ち寄り先の検討を行ってほしい。また他グループでもポスター・チラシを配布することになっているため、協力して作成、配布をすることを助言した。

図7 平成30年度（2018年度）の英語ガイドの様子



出典：上下中学校HP

<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/Presented%20in%20English3.pdf>

(4) おやきグループ (計 10 人)

「おやき販売」10 人

<当初検討>：例年、おやきを作って販売している。おやきは、小豆、チーズ等を入れた饅頭であり、200 個程度つくり 1 個 100 円で販売するものである。協力業者は上下南農産であり、饅頭の中に入れる小豆、チーズ、カレー等を試作して 3 種類程度作る予定であった。

最終的には、切り干し大根、ドライカレー、あんこの 3 種類となり、1 個 100 円で 200 個販売した。

<指導・助言>：レシピを書いたものを一緒に配布することも検討する。さらに収支報告書を作成して、協力してもらった業者の方へのお礼を検討することを助言した。

図 8 令和元年度 (2019 年度) の上下白壁祭りでのおやき販売



出典：著者撮影

おわりに

今後も上下中学校では、「総合的な学習の時間」での地域学習を続ける予定である。現在、上下中学校に入学する生徒は少なくなっているというが、こうした地域学習を行うことで、地元を良く知ることができ、将来上下町に帰った時のふるさとを活性化する取り組みにつながるのではないかと考える。さらに、たとえ地元に戻らなくても地域活性化の取り組みに関わったということで、他の地域の活性化の取り組みに関心が向くのではないかと考える。

課題としては、まず平成 27 年当初には補助金があったが現在はなくなり、予算がない状態で取り組んでいることである。そのためチラシ作成やおやき販売などは、地元の業者等の協力なしにはできないことになっており、将来も継続していくことが難しくなる恐れがある。

例として、おやきを作って販売するには、業者との協力、材料の購入、販売して代金を得るという一連の流れがあるが、現在は多くの地元の人たちがボランティアで協力していただいている。しかしこうした甘えの構造から脱却して、販売する過程からいかに黒字化するということを勉強することも必要であるのではないか。今後はこの視点から予算がない中で、いかに続けていくかを検討しなければならないと考える。

次に教諭の業務の多忙があげられる。学校現場では様々な仕事があり、今回の取り組みを集中的にすることは難しく、他の業務との調整が必要である。どうしても前年度を踏襲して、地元の人たちへ協力をお願いすることが多くなるのではないかと考える。

さらに転勤等で主力の教諭がいなくなり、取り組みのノウハウが継承されないことが挙げられる。細やかな人間関係や取り組みの流れが文章だけでは伝わりにくく、全くの白紙状態から始めることになる可能性もある。

このような多くの課題があるが、今後の中学校等の地域活性化の取り組みに対して、今回の事例は少しでも参考になるのではないかと考える。

引用・参考文献一覧表

・小林正和（2006）「広島県府中市上下町における「まちづくり」事業の取り組み」、福山大学経済学論集 第30巻第1・第2合併号

・上下中学校地図 <https://www.navitime.co.jp/maps/poi?code=00004-34108800090> をもとに加筆

・府中市立上下中学校HP

<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/syoukai/syoukaimenu.htm>

・府中市立上下中学校HP校長あいさつ

<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/syoukai/H31-5-14aisatsu.pdf>

・府中市立上下中学校 学校長 石川敬石氏撮影

・令和元年度（2019年度）のタピオカミルクティの販売風景：著者撮影

・令和元年度（2019年度）のUVレジンのキーホルダー手作り体験風景：著者撮影

・府中市立上下中学校HP

<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/sougou/SHIRAKABEFESTIVAL.pdf>

・上下白壁祭りでチラシ等の配布風景：著者撮影

・府中市立上下中学校HP

<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouge-chu/Presented%20in%20English3.pdf>

・令和元年度（2019年度）の上下白壁祭りでのおやき販売：著者撮影

About approach of local activation by public junior high school

Masakazu KOBAYASHI

A third-year student at Fuchu City Jouge Junior High Schools in Hiroshima Prefecture will make efforts to revitalize Fuchu City's Jogeoyo every year during the “comprehensive learning period”. This effort has been conducted since 2015, and the author has participated and provided guidance and advice every time. I would like to describe the background, the contents of the efforts, and the issues.

This year,39 third-grade students are working in four groups, but the upper and lower junior high schools are planning to continue regional learning in the “comprehensive learning period”. I think that being involved in initiatives for regional revitalization may be of interest to revitalization efforts in other regions.

The problem is that there was a subsidy at the beginning of 2015, but now it is gone, and we are working on it without a budget. Therefore, it cannot be done without such as local traders, and it may be difficult to continue in the future. I think we must consider how to continue in the future without a budget. Next, the teachers are busy business. There are various jobs at the school, and it is difficult to focus on this effort, and it is necessary to coordinate with other work. In addition, the main teachers are lost due to relocation, etc., and the know-how of the efforts is not inherited.

There is such a problem, but, for future junior high schools performing an action of the regional activation, thinks that I may serve as a reference.